

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4292200054		
法人名	社会福祉法人 さゆり会		
事業所名	グループホーム大浜	ユニット名	
所在地	長崎県五島市浜町142-1		
自己評価作成日	平成29年1月10日	評価結果市町村受理日	平成29年2月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成29年2月1日	評価確定日	平成29年2月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>外出支援や地域とのつながり・交流や出来る事を見つけ手伝って頂くことで生き生きと暮らして欲しい。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>“グループホーム大浜”の玄関に入ると、見事な梅の花が活けられていた。ホームの庭に咲いている花であり、入居者の方々に季節を感じて頂いている。リビングで過ごされる方も多く、台所の料理の音や香りを感じることができ、職員や他の入居者に囲まれての生活は昔の大家族を思い起こす光景であり、「安心」が増え、次第に穏やかにられる方も多し。入居者個々の生活歴やお好きな事等も把握しており、「花が好き」と言う方には居室から見える所に花壇を作り、お花の成長を職員に教えて下さっている。「自宅では毎日外を歩いていた」という方には、「散歩」を計画に盛り込まれている。地域交流も続けており、小学校と町内合同の運動会では入居者が大きな声で声援し、地域の一員として楽しいひと時を過ごされた。小学生の訪問もあり、肩もみ等をして下さっている。今後も「大浜」らしさを残しながら、更なる理念の実践に取り組み、行動の背景の真の原因分析も深めていく予定である。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護の理念の唱和を継続して、共有と実践に繋げていく。	「一人一人をありのままに受け入れて、その方が持てる力を引き出し、みんなと一緒にゆっくり、楽しく、おだやかに生活していただきます」という理念を大切にしており、入居者の行動障害に対しても職員同士の意見交換を行い、少しでも穏やかに生活できるように努めてこられた。	今後も理念の振り返りを行うと共に、理念の中の「その方が持てる力を引き出し」の実践状況を確認していく予定である。役割や楽しみが他にないのか、自立を阻害する介護になっていないか等の確認を行う予定である。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に参加しており、各種行事には積極的に参加している。ホームの行事にも地域の方々の参加を呼びかけている。小学生との交流も定期的に行っている。	小学校の学習発表会や入学式、卒業式に参加しており、子供達も草取り等に来て下さっている。近所の方からツワや野菜、南高梅、陶器などを頂いており、お礼にお弁当や紫蘇ジュース等をお届けしている。地域の敬老会や餅つき大会、八朔相撲の見学に行き、入居者も楽しまれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の時に話し理解して頂く様に努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状況やヒヤリハット事例 職員の研修報告を行う 派出所の方や小学校の校長先生に参加して頂き 災害時のマニュアルの作成時に意見を頂きマニュアル作りに取り入れる。	地域代表として前理事長も参加して下さい、職員も心強く思っている。地域の方々と共に、派出所の方や校長先生も参加して下さい、ホームの取り組みを理解して頂いている。災害時の話し合いでは小学校で使用しているマニュアルを頂いたり、地域の犯罪情報も教えて頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは必要な時 気軽に相談 話し合いが出来る関係が出来ている。	管理者が市の窓口を訪問し、運営推進会議の案内や議事録を届けている。運営推進会議で質問した内容(運営推進会議の議題等の質問)も、その都度回答して下さい、内容によっては、後日、お返事を下さっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない法人是としているが、職員一人で介護に当たっているときに徘徊等で施設より出て事故や怪我等がないように玄関の鍵を閉める時があるが 普段は施錠などは行わず対応している。	入居後、次第に穏やかになられる方が多い。入居者の意思決定を大切にしており、ご自分のペースで生活できる環境が作られている。喜怒哀楽の原因を分析し、主治医からのアドバイスを頂いたり、自宅での日課を把握し、ホームでも同じような行動が取れるように配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法についてミーティング等で勉強会を行っており、入浴時など身体に痣等の観察を行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度等について学ぶ機会が少ないので、ミーティング等の時に勉強する機会を作りたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は、まず管理者が行い、理解 納得していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には、毎日のケアを通じてご家族には面会時、意見・要望を伺うようにしている。ご家族が島外にいらっしゃる方には、請求書発送時 近況報告をしている。	毎月のお便りに沢山の写真を載せており、家族に郵送している。面会時や電話で日々の暮らしぶりや健康状態等を報告し、不安や要望の把握に努めている。敬老会等で家族と食事をする機会を作り、会話を楽しませている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングには、全員発言する機会を設けている。運営に関する事も自由に提案されるので、実践できることは、即反映している	職員の意見交換は活発である。クリスマスの出し物も検討し、目で見て楽しめる企画として、職員と入居者で「二人羽織」等も楽しまれた。法人内での異動も行われているが、事前に職員個々の意向を把握すると共に、「職員の能力が発揮できる場所」等も管理者から施設長に情報提供している。	27年度から、職員1人1人が責任を持って仕事をする事を目標に、業務分担を行ってきた。今後も更に責任を持って、より正確な仕事ができるように日々の業務内容の見直しをしていく予定である。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年12月のボーナスから人事考課制度が導入されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会は、全職員平等に与えられている。資格習得についても職員にすすめている。法人内で研修委員会を発足し、多くの職員が研修を受けられる機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内3GHの交流会、法人内で施設の取り組み等を研修発表することで サービスの質の向上に役立っている		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員は、出来るだけ本人に寄り添い、じっくり話し合える時間を作り、困っている事、不安 要望を受け止め、安心していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者と職員は、家族とゆっくり話し合う機会を作り、困っている事・不安・要望を受け止め、安心していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所相談者は、在宅サービスを利用されている方々がほとんどである。入所を待機されている方々には、他のサービス 施設の紹介をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の力を見極め 職員と一緒に出来る事をして頂く事で役割を持った生活を送っていただく。一つ一つの行為に感謝の言葉かけをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの生活や喜ばれたことを手紙やホーム便りなどで情報交換を密に行い、受診等ご家族にお願いすることで一緒に介護を行う関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方から入所された方はこれまでと同じ病院に行くことで馴染みの人たちと会うことができる。	地域行事の時や受診時に馴染みの方と再会している。馴染みの場所をドライブしたり、自宅訪問も行い、自宅の畑でミカンを収穫された方もおられる。リビングの席は同級生や同じ施設から入居してこられた方を近くに座って頂いたり、家族や地域の方の訪問もあり、会話を楽しまれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知で落ち着かない利用者優しく声をかけたり教えてくれている利用者には職員から感謝の言葉を掛け これからもよろしくお願ひしますと声をかける。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた方の初盆にはお供えをし家族にねぎらいの言葉を掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉に出せない利用者には顔の表情や言葉の端々でその人の思いを知るようにしている。	センター方式を利用している。入居者に寄り添い、日々の会話や行動を共にする事で、思いや希望を把握するように努めている。意思疎通が難しい方も表情やしぐさでお気持ちを察するようにしており、家族にも報告し、適宜、情報交換を続けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にそれまでの生活歴を家族や本人に尋ねサービスの利用につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴からその人の有する力を引き出すように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングの時に全職員で話し合っている。	入居時にセンター方式を記入し、生活歴や趣味、信仰等も記録している。自宅で毎日外を歩いていた方には「散歩」を計画に盛り込み、他の方も洗濯物たたみや下ごしらえ、ドライブや地域行事等も盛り込まれている。理学療法士等のアドバイスもあり、今後も記録に残していく予定である。	今後も各活動の「できる事」「できそうな事」「介助が必要な事(原因)」「行動障害の原因」を記録に残すと共に、医療連携も強化しながら「24時間シートアセスメントまとめ」の「ケアのアイデアと工夫」に繋げていく予定である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートで情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスの機能(ホットパック・足裏のマッサージ・メドマ等)を希望者に使用していただき 個々のニーズに柔軟に対応している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	老人会 小学校 友人 知人 ボランティア等の協力を得ながら豊かな暮らしを楽しむ事ができる様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を大切にしながら、かかりつけ医には定期的受診 協力医には往診して頂いている。受診時には必ず職員や家族が同行し、情報提供している。気軽に相談・協力が得られる関係が出来ている。	微妙な症状の変化も記録に残している。受診時はバイタルチェック表や排泄状況・体重・食事状況等の記録を主治医に見て頂き、適宜アドバイスを頂いている。体調が変化した時は主治医や訪問看護師がホームに来て下さり、職員の安心になっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職と介護職の連携は密に取れている。介護職員は利用者の異常時は直ぐに訪問看護に連絡している。訪問看護と委託契約し、週1回訪問して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院すると面会に行く 主治医・担当ナースと常に情報交換を行い、早期退院に向けて働きかけをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応については、早い段階から本人・家族の意見を聞いている。主治医・看護師等と支援方針を共有している。これからもご希望の方には、ホームで看取りをさせていただく予定である。	終末期には家族に泊まって頂き、一緒に看取りを行う事ができた。管理者も一緒に夜勤を行い、職員の不安軽減に努めた。看取りケアの内部研修を続けており、「いつも通りのケアを誠心誠意行う」事の確認が行われている。「ここで最期まで・・・」「ここがよかよ」と言われる方ばかりで、健康管理書(事前確認書)も頂いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応について訓練や研修を行っている。全職員が経験している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	定期的に避難訓練を実施している。周辺住民の方々へも協力をお願いしている	消防署や地域住民の方と総合訓練をしている。同じ地域の3つのホームとも協定書を取り交わし、お互いの訓練に参加している。消防団は地域の3つのホームを1年に1か所の割合で訓練に参加しており、29年度は「大浜」に来て頂く予定である。災害時に備えて食料や水等を用意し、隣接するサービスで防災頭巾も手作りしている。地震対策等の検討も行われ、すぐに役立つマニュアルを作成していく予定である。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人にあった言葉掛け 方言でも年長者に対する言葉使いをし馴れ合いにならないように努めている。	優しい職員が多く、声かけも優しく、ご本人のペースに応じた関わりを続けている。排泄時は転倒しないように注意し、さりげない見守りを行い、排泄時の声の大きさに注意し、羞恥心の配慮をしている。個人情報漏洩の職員個々の意識も再確認していく予定である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一つ一つのケアの度に声かけ説明をして本人の思いや希望を聞き、自分で決めていただけるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の性格 体調 望みなど利用者のペースを大事にしながら日々楽しく過ごしていただける支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一部の方を除いては身だしなみに気を配ることが出来ないの その日の天気 季節や同じものを着ないように支援している。毛染めなど希望があれば対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の出来る事を探し 料理の下ごしらえ 味見 片付け等を一緒にする事で食事を楽しんでいただく	季節の料理が作られ、季節の葉っぱ等も添えて彩りに配慮している。親子丼、ビビンバ丼、天丼、炊き込みご飯等も喜ばれ、お刺身も楽しんでいる。入居者もジャガイモや生姜の皮むき等をして下さり、男性の方も包丁研ぎをして下さった。今後も個別の水分量等の指示を頂く予定である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスは系列の栄養士に3ヶ月毎にチェックをお願いしている。食事の摂取量水分量は記録し不足のないようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔清掃・うがいを実施。夜間は、義歯を洗浄液につけるようにしており、本人の能力に応じて義歯の取り外し・装着等して頂いている		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握するように努めている。排泄のサインを見逃さずポータブルトイレやトイレ誘導し、オムツ減らしに努めている。	布の下着(パット)を使用している方が多い。排泄が自立している方もおられ、職員が必要時の介助をしている。放尿等がある方も生活歴を把握し、夜間はトイレの電気をより明るくする事で自然にトイレに行かれるようになった。頻尿時などは医師に相談し、アドバイスを頂いている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便状況をチェックしている。朝食後に豆乳ヨーグルトを提供し腸内環境を整え運動・マッサージなどに配慮しているが、便秘が続く方には、下剤を処方してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調不良や入浴拒否の方には職員が変わり声かけや時間をずらし対応している。どうしても入りたくない場合は 次の日に声かけし入浴して頂いている。	27年10月に機械浴が設置された。座位で入浴でき、安心して入浴できており、1人ずつ新しいお湯を入れるため喜ばれている。入浴時は職員との会話を楽しまれ、歌も聞かれている。入浴を拒まれる時も理由を確認し、無理強いをしないようにしている。ご自分でできる所は洗って頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れず人の気配を感じることでよく休まれる人には リビングで休んでいただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があったときには 職員が情報を共有し状態の変化を見逃さないように努める。一人で服用できない方には確実に服用した事を見届けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の好きな事 役割を持って頂く事で張り合いのある生活が出来る。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自宅にいる頃は 毎日散歩していたという方には、天気等悪くなければ 近所を30分ほど職員と一緒に散歩をしている。	緋寒桜などの季節の花見に行かれたり、初詣は神社の前に駐車しやすい住吉神社にお参りすることができた。荒川温泉で足湯を楽しまれたり、富江の多郎島のさんさんキャンプ村に行き、海を楽しまれた。海を眺めながら「ミナ取り」の話になり、皆さんも喜ばれた。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の人を除いてはお金を所持していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでもかけたり、受けたり出来る。困難な方には傍に寄り添い援助する。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節のポスターを貼り 季節感を取り入れている。玄関には季節の花を活けている	リビングで過ごされる方が多く、入居者同士の関係に配慮した座席の工夫をしている。畳の間では洗濯物をたたまれたり、廊下の椅子に座り、日向ぼっこをされている。リビングの掃き出し窓を開けると外との段差が大きく、転倒の危険性もあるため、窓は施錠している。施設長にベランダ等の設置をお願いしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事中に義歯を外す利用者が居て他の利用者が嫌がるので テーブルの向きを変えるなどして対応している。また それぞれ気の合った者同士で座っていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたタンスや棚等を持って来て頂き 自宅と同じ環境に近づけることで居心地よく過ごして頂ける様に工夫をしている。	「花が好き」と言う方の居室から見える所に花壇を作る事ができ、お花の話題が増えている。ぬいぐるみや植物、ご本人が作られた“ちぎり絵”や家族の写真、大好きな演歌歌手の写真などを飾られている。職員と一緒に居室の掃除や整理整頓をされる方もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物全体がバリアフリーになっている。廊下トイレ 風呂場には手すりがついている。トイレには大きく張り紙をし 夜間は分るように電気をつけ明るくしている		